



若き心

集まるどころ 3月 (NO14)

茅ヶ崎市立鶴が台中学校校長 山口 茂

令和4年3月2日

公立高校の学力検査

2月15日(火)に公立高等学校の入試のための学力検査が行われました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が心配されていましたが、鶴が台中学校では、新型コロナウイルス感染症の関係で受検できなかった生徒はいませんでした。

また、入試の日は、雪が降ったりして、公共交通機関に影響が出ることが心配されますが、朝から良いお天気で3年生の皆さんは無事に試験会場に到着できたようです。

続く16日(水)から18日(金)の3日間では、それぞれの高等学校で「特色検査」や「面接試験」が実施されました。私は、皆さんと「面接試験」の練習をしてきましたので、3年生の皆さんが実力を発揮してくれることを祈っていました。

3年生の皆さん、長い間ご苦労様でした。受験勉強と向き合うだけでも大変なのに、今年は新型コロナウイルスとの戦いもあって、例年の2倍以上大変だったと思います。でも、誰一人プレッシャーに負けずに、最後まで頑張りました。本当に素晴らしいことだと思います。

1年生のインクルーシブ教育講演会

25日(金)の6時間目に1年生が、インクルーシブ教育の講演会を行いました。神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課より程島先生においでいただき、タブレットを利用してオンラインで、お話をいただきました。

神奈川県では、すべての生徒が同じ場で共に学び、共に育つことを通して、お互いを理解し、尊重し合う共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育を推進しています。共生社会とは、すべての人が生き生きと生活できる社会のことであり、そのために中学生からできることや気を付けなければならないことを学習しておいた方がよいのです。今回の講演でお話いただいたポイントは2つだと思います。

1つ目は「多様性の尊重」です。鶴が台中学校の生徒は、一人ひとりみんな違う個性を持っています。走るのが早い生徒もいれば歌が上手な生徒もいます。じっくり考えるのが得意な生徒もいれば、いろいろなことにどんどんチャレンジできる生徒もいます。

全校生徒442人、同じ人は一人もいません。インクルーシブな学校とは、そのような一人ひとりの違いをお互いに認め合い、尊重しあうことができる学校です。

2つ目は「固定観念を打破する」です。私たちが知らず知らずのうちに持ってしまった“思い込み”や“決めつけ”が、共生社会を築くことの邪魔になっています。

程島先生はこのようなクイズを出題しました。

「父と息子がドライブ中に交通事故にあい、父はかすり傷でしたが、息子が命にかかわる大怪我をしました。救急車で運ばれた総合病院の外科医が患者の顔を見るなり“彼は、私の息子だ。私に

はとても手術できない”と言いました。この時の様子をわかりやすく説明してください」

“手術するはずの外科医が、この子供の母親だった”というのが答えなのだそうです。“外科医は男性の仕事”と思い込んでしまっていると、この答えは考えつきません。こうした固定観念が、すべての人が生き生きと生活できる社会の実現の障害になっているのです。

4月からは、鶴が台中学校にも特別支援級が設置されます。これまで以上に、一人ひとりの違いを認め合い心から尊重しあえる学校になるように、“思い込み”や“決めつけ”をなくしていきましょう。

修学旅行代替行事

やっと行けました！

八景島シーパラダイス！！

2月27日(日)、3年生はようやく修学旅行代替行事、八景島シーパラダイスに行くことができました。

朝、学校に集合したときから、生徒の皆さんはテンションアップ！！オープンする前の9時30分頃、現地到着。待ち時間の間にはマスクを取った笑顔のクラス写真も久しぶりに撮影することができました。



10時の開場と共に、一番乗りの状態であらかじめ決めておいたクラスの枠を超えた2人以上のグループに分かれて楽しみました。水族館でかわいい動物たちを見た後はイルカやペンギン、カピバラなどのぬいぐるみやグッズを買ったり、バイキングや迷路等のアトラクションを楽しんだり、チュロスやクレープなどテイクアウトの食べ物をおいしそうにたべたりしていました。

面白かったのは学年の先生がつくった先生ポケモンカード。先生方は自分の写真や特徴、体力や攻撃力が数字で示され

ているカードを持っていました。生徒達はグループ行動の時に先生に出会うとミッション(クイズ?)がだされ、ミッションをクリアしたらカードをもらえるという仕組みでした。カード集めに必死になっている生徒も多く、全部で9種類のカードを集めるべく先生達を探し回る場面も見られました。

朝10時から集合時間の15時20分まで、長いようで短い1日が過ぎました。

